

「幼児指導」 質問と答え

Q1.

幼稚園や保育園で保育をする上で、子どもの主体性を大切にとか、ゆとりをもった保育をととか、否定はしないなどこれまでに授業でならって頭ではわかっているのですが、実際に毎日子どもたちと過ごすなかで常にそれらが守れるのかなと疑問に思うことがあります。(いつも優しく見守れるのか？ということです)

A.

最初はムリです。

振り返り、反省。自分を責めるのではなく「どうすればよかったか」

PDCA

そうしていくうちに「クセ」になる。そして子どもたちが結果をくれる。

「悪い」と思えた子どもの言動をポジティブに捉え直してみる。

先輩の先生の言動を「なぜ？」と考えてみる。

プラス、先輩に相談。

「幼児指導」 質問と答え

Q2.

園長先生目から見て園の先生たちは子どもたちとどんな風に関わっていますか？特別な活動ではなく日常の姿が知りたいです。よかったら教えてください。

A.

(なぜ授業で日常を紹介しなかったのか？←経験をしないと積極的な視点を持ちづらいから)

「よく計画を練り、その日の朝に全てを忘れる」 by 倉橋惣三

一人ひとりの子どもの顔を思い浮かべながら、「どう接しようかな」

環境の用意、整備。

子ども、子どもたちの言動にアンテナを張り、寄り添い、興味を持つ。↓

「何をしているんだろう？」 「なんでしているんだろう？」 →それを表現することも。

10の姿などを頭に置き、なにが育っているか、自分はどんな援助をできるか（しない方が良いか）を考える。

子どもの主体性を大事にしながら、ときどき「仕掛け」してみる。

子どもの心が動いてほしい、動かしたい！という気持ちで。

心を爽やかにしていると、子どもたちから得られるものがいっぱい。

自分自身が楽しもうとする。そして同僚とその楽しさを共有する。

笑顔（喜怒哀楽）、大切！

「幼児指導」 質問と答え

Q3.

道徳やルールは活動の中で身につくと学びましたが、大人が援助をしたら必ず身につくようになるものですか？

A.

ムリです。

人間は機械ではありません。

ワクチンが絶対に病気を防ぐわけではないのと同じ。

子どもの発達には遺伝や園以外の環境が大きな影響。

でも、ワクチンを打たなければ病気にかかる可能性は高くなり、重症化もする。

「守らせる」では身につかない、見ていないところでは守らない、新しい場面ではできない。

「道徳的知識」と「道徳的行動」は違う。

「守らないと気持ち悪い」「守ると気持ちがいい」という経験。

「幼児指導」 質問と答え

Q4.

幼児教育に関わろうと思ったきっかけはなんですか？

そして、幼児教育に関わって良かったと思った出来事などがあれば教えていただきたいです。

A.

小川:子どもがキライでした。

でも1つ目の答えをやり続けたら、子どもが慕ってくれる、変わってくれる→病みつきに。

大げさな出来事は思いつかないけれど、卒園児が「園長先生のお話を守ってるんだ！」と

ニコニコしながら話してくれると、やっていてよかったなあと。

また、若い先生たちの子どもとの関わりや保育観が成長していくのを見るのも感無量。

先生たち:「子どもが大好きだから！」が一番大きい(当然)

あとは子どもからのエネルギーを素直に浴びていけば。

「幼児指導」 質問と答え

Q5.

新しい先生を採用する際「子ども観」が園に合ったものかを見る、といったお話を授業内でされていましたが、就活の時に学生が意識してアピールすべき点があれば教えてください。

A.

「子ども大好き」光線はたっぷり出してください。

その上で、「子どものこういうところに心打たれる」を、具体的エピソードで。

「幼稚園の先生が優しかったから」も良いけれど、具体的エピソードがあるとなお良いです。園を見学して、良いと思ったことを具体的に。

(園見学では疑問に思ったことをたくさん質問しましょう。「良い先生になりたいから」オーラを出しながら)

今の自分に足りないこと、それをどう克服したいか。

「園の方針が自分の考えにあっている」ではなく、「自分はこの園の保育に役立つことができる」という表現でアピールしてください。

あとは、自分を偽らない！

園見学のポイント：施設設備ではなく、その背景にある保育感を読み取る。わからなければ質問。

子どもたち、先生たちの態度。顔がひきつっていないか。

「幼児指導」 質問と答え

Q6.

先生がこの大学でゼミナールを開講するとしたら、何を専門にしますか？

A.

私の良いところは、

- ・自分には専門性がないとわかっている
- ・そのかわり、なんにでも興味を持てる

ことだと思っています。

だからこちらからテーマを掲げるのではなく学生の問題意識に寄り添って一緒に考えていくゼミなら。

私の学生時代のゼミの先生もそういうタイプでした。なのですごく自由に、楽しみながら研究できました。

専任教員だった大学もそれでOKだったので、学生たちも楽しそうでした（そう見えただけ？）

小川からのメッセージ

私は若い先生や学生さんが、一生懸命自分を磨こうとしているのを見るのが大好きです。貪欲に知識を取り入れたり、考えを巡らせたり、ときには悩み抜いたり。また、友だちと保育について語り合ったり笑い合ったり。

これは、みなさんが子どもたちと接するときも同じだと思います。「楽しそうに遊んでる」のを見る、一緒に遊んで楽しむ、だけでは飽き足らず、育とうとしている姿を見る視点、育ちを援助する気持ちが生ええると、保育というものがぐんと意義深くなっていくはずですよ。

2年後、ぜひ私たちの仲間になってください。こんなに楽しくて意義深い仕事はありません！